

ケアマネ かわら版

2009年
11月号

Vol.30

松江地域介護支援専門員協会

事務局 〒690-0012
松江市古志原7-4-14
あおぞら介護センター内
TEL (0852) 20-2123
FAX (0852) 20-2122
E-mail akaper@amable.ne.jp

～ 居宅ケアマネ研修会に参加して ～

さわやか東部ライフサポートセンター

河野美波子

研修は2部構成で行なわれました。

前半は監査でお馴染みの、島根県高齢者福祉課在宅サービスグループの安井健二氏の講義を受けました。

居宅介護支援の流れについて、何故、課題分析やサービス担当者会議、モニタリングが必要なのか、プランができるに至るプロセスの大切さ、利用者にとって最適であるのかどうか、利用者個人の主張でなく、ケアマネの意向のみでなく、専門的な立場から意見を聞き客観的に導き出された結果であること、それが記録により客観的に証明でき、透明性があることが大切と、繰り返し熱意を持って話されました。又、改正のポイントについてもわかりやすく説明をされました。

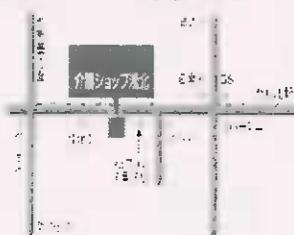
遠くて、怖い存在と思いがちな、お役所の方がこんなにも近く、そして私たちの思いを共有してもらえることに喜びを感じいつでも相談できるのだという安心感も受けました。特に一人ケアマネの事業所の方は、一人で悩まず、気軽に相談できますよ。ということが伝わったと思います。

後半は、グループに分かれフリートークの形で進められました。その中で医療との連携が取り上げられました。サービス事業所との連携は着々と成長を遂げており、特に予防支援が始まってからは情報のやり取りもスムーズになって来ました。しかし、医療との連携はまだまだ取り難さがあり、その解決方法として、行き来する情報をどのような流れで、どう伝えていくのか、お互いに欲しい情報は何かということ。必要な情報、書式の検討など今後の連携をスムーズにする為の手段をどうするのか、早急な対応が望まれます。

日々、身も心も疲れ果てて、迷いの渦の中からはなかなか抜け出せないケアマネも多いと思います。孤独な戦いをするのではなく、相談できる場を持つ意味でも、今回の研修は有意義だったのではないのでしょうか。自分の思いが吐き出せる場を積極的に見つけていくこと、リフレッシュできる機会を持つことも大切なことだと感じました。

介護ショップしょうほく

〒690-0871
島根県松江市東奥谷町358-1
TEL0852-31-1288
FAX0852-31-1290
営業時間:AM10:00～PM6:00
定休日:祝、祭日



「ケアサポートことぶき」は、
高齢者の方の
家での暮らしを
応援します。

開設 介護相談センター
松江ケアプランセンター

0852-33-7303
〒690-0828 松江市学園南2-1-5

介護保険の相談・申請の代行、ケアプランの作成、介護施設の紹介など

(デイサービス)(ケアプランの作成)(福祉用具のレンタル・販売)など

高齢者介護サービス
(有)ケアサポートことぶき

0852-60-0660

〒690-0044 島根県松江市浜乃木5-2-23 <http://hot-matsue.com/kotobuki/>



平成 21 年 9 月 29 日 いきいきプラザで開催された合同研修会には約 80 人の参加がありました。当日は、協会、医師会、介護保険課、保健所からも参加いただきました。各代表の挨拶の後、アンケート結果報告、そして話題提供として、「医師との連携～サービス担当者会議を通して利用者のよりよい暮らしの為にチームの連携を高める～」の発表がありました。この事例は骨折にて総合病院に入院した A さんのかかりつけ医が退院前カンファレンスにも参加し、そして在宅を支える為に主治医、ケアマネ、サービス事業所、地域の民生委員、近隣、宅配弁当事業所などチームの連携がとれた模範的な事例でした。担当者会議に主治医が参加して下さることでサービス利用時の留意点や不安な点について伺うことができ、安心感やモチベーションアップに繋がったようです。担当者会議は目標の共有、本人・家族の意向の確認、役割分担を明確にできチームで支えるということを再認識できる大切な場です。発表の中で提案されたように、本人・家族を支えるためのコーディネーターであるケアマネの役割として連携に必要な効率的な情報交換・担当者会議が気軽に主治医の先生に相談しながら開催できるようになりたいものです。

参加者 S・W

連携に関するアンケート集計からの抜粋 回答者数 (Dr.36 人・CM78 人)

- (1) 担当 CM になったことの連絡を Dr. 側は 31 人が望んでいるが実際には CM の半数が全てには連絡できず一部にのみ連絡している。理由としては、医療機関に対して高い壁を感じるとか、総合病院へは連絡し難いなどがある。
- (2) 主治医はケアプランの提供を望んでいる (30 人) のに対し、CM 側は一部に渡している (医療系サービスの利用者や新規プランのみ等) が 55 人。ほとんど渡していない (口頭でサービス内容を伝えている等) が 22 人。プランを持参しても返された (5 人) などの回答があった。
- (3) 担当者会議の参加依頼があった場合、実際に参加できたかに対しては Dr. は診療時間と重なり時間設定上無理との回答が多かった。全く参加出来ない (6 人)、出来なかったことがある (13 人)。全てに参加 (5 人)
- (4) CM が主治医に担当者会議参加依頼をしているかに対しては、殆どなしが 37 人、一部が 36 人。理由としては Dr. は多忙でおそらく参加してもらえないと思っている、Dr. との関係性が薄い、敷居が高いなど。
- (5) 担当者会議に主治医の参加依頼をする場合の工夫についての回答
・ 往診時を利用 ・ 医院で開催 ・ MSW や Ns に依頼 ・ Dr. の都合優先
- (6) どんな場合に連携を図る必要があると感じるか
(Dr. も CM とほぼ同じ回答)
・ 医療依存度が高い、病状が不安定、急変の可能性がある、難病等
・ 介護者のトラブル (介護力、病識・理解力がない等、虐待・困難ケース)
・ 状態変化、サービス内容の変更時



<p>福祉用具・介護用品の店 有限会社 げんき堂</p> <p>本店 〒692-0011 安来市安来町 1083 ☎ 0854-22-3652 FAX 0854-22-4222</p> <p>松江店 〒690-0012 松江市古志原 3-7-31 ☎ 0852-28-6041 FAX 0852-28-6045</p>	<p>—医療と福祉で80余年— 医療法人社団 回春会</p> <p>ISO 基本方針</p> <p>『回春会を愛して頂き、地域ナンバーワンの顧客満足度を目指す』</p> <p>笑顔の花を咲かせましょ</p> <p>かい しゅん えん 回春苑</p> <p>介護老人保健施設 ライフケア</p> <p>ISO 9001・2000 認証取得</p> <p>入所定員 (100 名) 通所定員 (30 名) ショートステイ</p> <p>松江市新庄町 1172 TEL (0852) 34-0110</p>
--	--

支援専門員の連携を考えよう

研修に参加して

もちだの郷居宅介護支援事業所

上野 久美子

今回の研修に参加し、改めてケアマネとしての対応を考え直すいい機会となった。

医師やケアマネ等が一度に集まり話し合いの場が持て、時間が足りないと感じるくらい有意義な研修だった。医師と意見交換で様々な意見が出、日々の業務の中での問題点が明確となった。以下に内容を要約して今後の支援に活かしたい。

① 医師との連携にあたって

- ・アポをきちんと取る。
- ・医師（医院）との連携の取り方、アポの取り方について各医院の対応の特徴をつかみ事業所内で伝え合いその方法を覚える。
- ・医師との面会の際には、具体的に事前に内容を提示しガラガラとした報告にならないように注意する。（何が聞きたいか明確にして面会する）

② カンファレンスの開催にあたって

- ・ケースにより医師参加で開くものとそうでないものを見極める。
- ・何を決めるのか、何が聞きたいのか、ポイントを絞る。
- ・複雑な事例や重度なケース等は特に根回し、事前準備が必要。
- ・事前に情報提供しておけば、病歴や経過等はお互いに知っている事で重複もなく時間短縮につながり、カンファレンスが開きやすくなる。



ケアマネの基礎職種が様々なこともあり、医師を過剰に意識し過ぎて壁を作っているのはケアマネ自身ではないだろうか。苦手意識を変え、自分は誰のために動いているのか、家族と同じ目線で関わっていく事が大切だと感じている。

実施されたアンケートの結果を再考し、これを契機にお互いの立場を考え、歩み寄り、協力体制を作りより良いサービスを提供していきたい。医師とケアマネがお互いに生の声を聞く機会は減多にないので、次回をもっとたくさんの方に参加して欲しい。

らくらくタイコー

福祉用具レンタル・販売・住宅改修・
セーフティホーム 24

松江市北田町 63 番地 4

TEL0852-22-3553 FAX0852-22-3555



